

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市若林図書館		
2 指定管理者	株式会社ヴィアックス		
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和3年度 157,482人団体〔個人：157,328人、団体・文庫：154団体〕（前年度比 101.9%） ・令和2年度 154,486人団体〔個人：154,318人、団体・文庫：168団体〕（前年度比 85.1%） ・令和元年度 181,597人団体〔個人：181,302人、団体・文庫：295団体〕（前年度比 108.3%）		
	《事業》 ・仙台市若林図書館の運営管理		
5 収支の状況	《費用》		()は前年度決算額
	・ 指定管理者に支払った費用	97,154千円 (97,154千円)	
	・ その他市が負担した費用	29,402千円 (15,668千円)	
	《収入》		
	・ 使用料収入	0千円 (0千円)	
	・ その他収入	24千円 (22千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間：令和3年12月10日～12月23日 ・利用者懇談会 開催日：令和4年2月12日～3月1日		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護に努めるとともに図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。 危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、カウンターでは持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供したり、館内の子ども用トイレに節水を呼びかける掲示をする等、環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	利用者からの汚損本に関する声を受けて、資料の丁寧な取扱いについて、乗、図書館日より、ステッカー等様々な印刷物にてマナーアップを促した。また、非来館型のおはなし会を開催することにより、読み聞かせを楽しむ親子の選択肢が増えた。発行する情報誌には、コロナ禍における臨時休館の情報等をリアルタイムで提供できるように図書館ホームページの二次元コードを掲載し図書館情報が身近に得られるように努めた。	27/27
V 施設固有の基準	若林区ジュニアリーダーを対象に読み聞かせの研修会を行い、おはなし会で実際に絵本の読み聞かせを行ってもらった。また、オンラインによるおはなし会を開催し、非接触型のサービスとして、コロナ禍において来館が困難な利用者の需要にこたえた。 また、震災の記憶を継承し震災文庫の利活用を図るため、仙台市博物館と連携して写真展を開催した。若林区の農業地帯としての成り立ちに着目し、仙台市東部沿岸地域で農業に取り組む若手就農者による講演を行った。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>令和3年度はコロナ禍の中、感染拡大防止対策を適切に講じながら事業を実施するとともに、若林図書館の持つ特徴や地域特性を活かし、「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。自主事業では地域や関係機関と連携した事業を中心に取り組み、図書館利用の促進を図った。中でも、震災関連事業や農業連携事業では、津波被害の大きかった仙台市東部沿岸地域の被災状況から復興までのさまざまな取り組みについて、市民の方々に知ってもらう契機とした。併せて、仙台市図書館で進める「震災文庫」の資料や若林図書館で分担収集する農業分野の資料の利用促進を図る機会となった。定例事業として、来館型のおはなし会を開催していたが、感染拡大に伴い開催できない期間もあったことから、非来館型のオンラインおはなし会を実施し、参加機会の充実に努めた。参加した親子からは好評で、新たな利用者の獲得につながった。加えて、「朗読コンサート」や「絵本作家講演会」「SDGsをテーマとした映画鑑賞会」など年齢層に合わせた多様な事業を実施した。これらの取り組みにより、既存利用者の満足度を上げるとともに、新たな利用者の図書館への来館促進につなげることができた。さらに、11月に開設した「せんだい電子図書館」の普及を図るため、使用方法を学習する情報リテラシー支援講座を開催した。また、図書を介したボランティア活動を行う方向へのステップアップ講座を開催し、地域のボランティア活動の情報交換となる場を提供することができた。職員研修では、全従事者対象の研修として、認知症サポーター養成講座を実施するほか、児童担当職員を対象に、本社オンラインシステムを活用し、他館とコロナ禍でのイベントや取り組みを報告し合うなど、情報の共有化を図り、自館事業の充実に努めた。施設管理面では全集やシリーズの図書を専用の書架に配架するなど、利用しやすい環境を提供できた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、子どもの読書活動を支える取り組みを積極的に行い、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなしかい」、のびすく若林でのおはなし会など地域に出向いての事業や、市民センターとの連携によるジュニアリーダーを対象とした読み聞かせ研修などを実施した。</p> <p>また、関係機関や地域施設と連携し、幅広い分野で趣向を凝らした事業を実施している。休館中の博物館からパネルを借用して「東部沿岸地域の歴史と記録」と題した展示を行い、災害の歴史を知り、防災意識を向上させる機会としたほか、せんだい農業園芸センターとの連携では、東部沿岸地域の若手就農者の講演を開催し、併せて分担収集分野である農業関連資料のPRを行った。そのほか、仙台七夕関連パネル展、バックヤードツアー、ぬいぐるみおとまり会や絵本作家講演会などを開催した。</p> <p>さらに、市民一人ひとりに利用しやすい図書館を推進する取り組みとして、「オンラインおはなし会」は、乳幼児親子への読書支援を充実させるとともに、コロナ禍において利用者の需要に応える非接触型サービスとして評価できる。また、情報リテラシー支援講座は、令和3年11月に開始されたせんだい電子図書館の活用に向け、利用者を積極的にサポートする機会となった。</p> <p>職員研修については、個人情報保護や人権啓発、接遇などをテーマにした全スタッフ対象の研修のほか、分野別の研修メニューも充実している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策に関しては、館内の消毒や換気等を適切に行った。</p> <p>以上、若林図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館